

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
6	米山 享範（25）	<p>1. 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施とフレイル健診について</p> <p>厚生労働省は、要介護になる手前のフレイルの人を把握するため、75歳以上の後期高齢者を対象に令和2年度（2020年）に新たな健診を導入することを先ごろ決定した。この健診の大きな狙いは、自立して生活できる健康寿命を延ばすとともに、介護が必要になる人を減らすことで、医療費並びに全体の社会保障費の膨張を抑制しようとするものであることは明白である。</p> <p>団塊の世代が75歳に達する2025年は介護、介護予防、住まい、自立した日常生活の支援が包括的に確保され、皆さんが安心して暮らせる地域包括ケアシステムの実現も急がれる。人生100年時代の到来で、100歳以上の高齢者の増加も見込まれる。このような背景から以下の点について質問する。</p> <p>(1) 来年度から実施される高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の導入、並びにフレイル健診の実施に当たり、市はどのような体制で取り組むのか。体制づくりは進めているのか。</p> <p>(2) 一体実施によりフレイルを早期に把握し、予防することが可能となるが、フレイル予防において基本的なことは、栄養状態の改善だと言われている。このことから、一体的な導入に当たっては、管理栄養士の目線を取り入れることが重要だと考えるが、担当部署への管理栄養士の配置状況はどうか。</p> <p>(3) フレイル予防には管理栄養士などの人材確保が急務であるが、富士市においてはこれらの人材確保には問題ないのか。来春の採用計画はあるのか。また、現在の保健師、管理栄養士の人数はどうか。充足しているのか。また、活動の一端をお聞かせ願いたい。</p> <p>(4) フレイルを予防するためには、社会保障としての介護予防とともに、高齢者を社会的、精神的に孤立させない環境の整備も重要となる。フレイルの状態をチェックしたり、フレイルの予防を社会に広めるフレイルサポーターの活動は、今後の高齢化社会に不可欠なものと考えているが、富士市ではフレイルサポーター導入の取り組みはあるのか。</p> <p>2. 公的医療保険に加入していない無保険者について</p> <p>全ての人が活躍できる社会の基盤となるものは、健康で穏やかな生活の確保である。しかしながら、病気になってしまった、転倒して足や手にけがをしてしまったけれども無保険のために病院にも行けないという人が多数いると聞いている。</p> <p>大人が無保険ならば、その子どもも無保険の子になってしまう。たとえ低所得者であったとしても、原則として、全ての人が何らかの医療保険制度に加入し、一定の医療サービスを誰でも享受できる、経済的な格差に関係なく、ひとしく医療サービスが受けられることが本当の姿ではないだろうか。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
6	米山 享範（25）	<p>そこで国民健康保険加入者の実態について、以下質問する。</p> <p>(1) 国保加入者は自営業や農業者の割合が年々低下し、無職の人の割合が高くなる傾向にあると言われているが、富士市の現状はどうか。</p> <p>(2) 富士市における無保険者の状況は。また、無保険の子と言われる小学生、中学生、高校生を含む20歳以下の無保険者の状況はどうか。</p> <p>(3) 無職になり、無保険者となる要因をどのように捉えているか。</p> <p>(4) 国保加入者は保険税を納付する義務があるが、滞納者の状況はどうか。悪質滞納者にはどのように対処しているのか。</p>	市長 及び 担当部長